

2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	森 久美子
論文執筆者名	樋口 加奈
論文の題 (テーマ)	目のイラストによる備品盗難抑止効果の研究
簡単な内容 (概要)	<p>本稿は、スーパーマーケットの買い物カゴの内側に「目」のイラストを貼り付けることによって、カゴの店舗外への持ち去りが抑止できるかどうかを検証したものである。</p> <p>研究1では、一週間ごとに目のイラストを貼る週と貼らない週を繰り返しながら、6週間にわたりカゴの増減を計測した。研究2では、目のイラストを貼る週と野菜のイラストを貼る週を交互に5週ずつ10週間繰り返し、その間のカゴの増減を計測した。</p> <p>結果、イラストの効果は統計的には有意ではなかった。しかし、目のイラストを貼った週の方が、イラストなしや野菜イラストを貼った週よりもカゴの減数は少なかった。また、イラストの目の視線が正面からずれていた場合はカゴの減数が大きく、正面を見ていない目のイラストでは持ち去り抑止効果が得られないことが示唆された。</p>
推薦の理由	<p>買い物カゴの持ち去り行動は、レジ袋の廃止や有料化に伴って問題化している。論文著者が在学中アルバイトを続けてきたスーパーマーケットでも、商品清算後のカゴを客が持ち帰るケースが頻発し、店舗にとってはカゴの補充が経済的負担となっていた。著者は、この問題を社会心理学の知見によって解決できないかと考えて研究を行った。</p> <p>他者存在に個人の行動が影響されることは社会心理学の中心テーマである。集団で生活する人間は他者からの評判に敏感であり、それゆえに、「目」の画像や人間の顔を想起させる画像が提示された状況では向社会的行動が促進されるということがこれまでの研究で指摘されてきた。日本でも神戸市など、放置自転車対策として路上に目の画像の看板を設置するなどしている自治体が存在する。</p> <p>本稿はこのアイデアを、カゴの持ち去り抑止に応用したものである。現実的な問題に、イラストの貼付という低コストの解決方法を示した点は評価に値する。統計的には十分な効果ではなかったが、持ち去り数自体は減少していたため、この店舗では研究終了後もカゴに目のイラストが継続使用されている。また、日本で目の効果を検証した研究は実験室実験が多いが、本稿はフィールドで効果検証を行っている点で学術的にも価値あるデータである。持ち去りの実態を把握するための1カ月の予備調査を含めれば、20週にわたって連日カゴを数え続けた本研究は、店舗で働く方々の多大なご協力の上に実現した力作といえよう。</p>